

關西大學 學生新聞

編輯部 印刷部 發行部 編輯部

尚良原紳 行發編印

所行發關

學大西關

部聞新

區川淀東市阪大

技術の傳達

矢口孝次郎

技術の傳達と云ふ問題は資本主義社會の發展に就いては勿論、如何に低度の社會に就いても、その社會の經濟生活の發展を理解するに際して欠くべからざる考察の對象である。云ふまでもなく、社會文化の發展に於いては、技術の傳達が切り離されて行はれるものではなく、全文化との關聯の裡に行はれるのであるが、經濟生活の側面からはそれを一つの獨立の問題としてとりあへざるを得る。

さてここに一つの問題が起る。それは世界の各部分に種々の類似した技術が、現に存する事は勿論、かなり古い時代から行はれて居るが、それらは同一の起源から別の系統をたどつて發展したものであるか、或は各々別個の起源から發生したものであるか、と云ふ事である。ここに云はれ技術の系譜が尋ねられるのである。然し乍ら考古學的考察の範圍に於いて然も假定的に説明せらるゝ場合は、吾々が何等かの根據によつてかなり明確に得る部分及び時代に就いて言へば、それは殆んど凡て何等かの形式に於ける傳達によつて行はれた。即ち技術の傳達は技術の傳達を契機とする。或はそれを前提とする。然しここに於いては、その傳達は廣く文化の傳達と共に、或はそれに含まれたものとして理解されねばならぬ事は言ふまでもない。

然し乍ら技術の傳達が如何に行はれたかと言ふ問題になると正確なる解答は殆んど不可能である。何故なれば社會と社會、民族と民族との接觸交渉は全く多岐多

種々の方法によつて行はれる個人の移住或は接觸の機會が同時に技術の傳達の機會となつた事は想像するに難くない。かくてカンガムの言ふ如く、過去に於ける個人的交渉の偶發乃至類發を考へれば、假令その行はれた時代や形式に就いての記録は殘存しないとしても、かかる形式の技術の傳達の範圍の廣大なる事は無限であると言へよう。

次に考へらるゝ傳達の形式は傳れたる外來品の模倣によるものである。この形式も個人の傳達と等しく幼稚なる技術の發展段階に見られるのであるが、より多く財富の一般の流通即ち商業の發展を前提として居る。また輸入する側から言つても、個人の傳達が比較的受動的であるに對してこの場合はむしろ積極的である。即ち外來品を模倣し、時には工夫改良し得るためには、既にそれだけの技術の存在を前提として居るのみならず、積極的な意欲がなければならぬ。勿論幼稚なる民族の間には於ける單なる模倣もあり得るのであるが、それだけでは吾々が主として考へて居る技術、即ち生産上の技術の傳達の問題とはなり得ない。次に模倣による傳達の効率は、模倣する人種の智力的性格に關する事が多い事が認められねばならない。この點は吾々がまもなく、吾々日本人が技術の廣くは一般文化の模倣によつて短期間の間に西洋の技術を廣くは一般文化を輸入し、消化し、更に發展せしめつゝある事が一つの驚異とされて居る事によつて示される。かくの如く模倣による技術の傳達は受容民族の智力的性格如何によつて彼等の技術の發展に價する程進歩せしむるものであるが、この事は他の傳達の形式に就いて

も云ひ得るが、特に模倣に於いてそれはあくまで模倣であつて獨立の發明とは區別されねばならぬ。

技術の傳達の最も進んだ形式は文獻による傳達である。云ふまでもなくこの形式こそ、既に技術の世界の問題ではなく、凡ゆる文化の傳達に於いて最も重要な役割を演じたものであつた。思想の傳達を基礎とする法律政治の制度の輸入はこの事を最も明白に示して居る。然し乍ら技術上に於いてもこの事は例外ではなく、嚴密なる知識を前提とする技術例へば藥物機械建築等に關する技術に於いては、この方法による以外に完全なる傳達は不可能である。この形式は吾々の社會に於いて最も廣く行はれて居る所であり、且つ種々の方面に於いて切實なる問題を提供して居る吾々の知る如くである。

以上極めて大體に三つの形式を考へたのであるが、この三つの形式は必ずしも嚴密に技術の傳達に於ける發展の三階段を示すものではなく、また三形式が各々遊離的に行はれたと言ふものでもない。然し大體に於いては發展の傾向にそと考へられよう。次に各時代の文化の程度、それに關係する民族間の交渉如何等によつて三形式の間には種々の關聯が見出されるであらう。またこれらの傳達過程は必ずしも平和の姿に於いて行はれたものでもない。否むしろ、技術の傳達の一面即ち技術の獲得に於いては鬭争が常態であるやうにすら考へられる。この事は技術の秘密と言ふ事が、人類の間に於ける長い間のならはしであつた事によつて、その反面が語られて居る然しその事は人類の偏狹を示すものとしてのみ受とらるべきでなく技術に對する熱望をも示して居るのである。吾々はその事に就いての種々の儀式を知られて居る。(筆者は本學教授)

ノモスとロゴス

管 守 常

人間の生き方には様々ある。法律的な生き方、哲學的な生き方と私の考へ方では哲學をやつて居る人間からすれば哲學的であるとはかぎらない。私は哲學の學徒であるけれども、哲學的と云ふ言葉に對して大へん懷疑的でありまた慎重でありたいと思つて居る。

哲學科出の人間が必ずしも哲學的でないれば、また法律科出の人間が必ずしも法律的でない。將棋の詰手なのだ。あれも人間の考へたところであると共に、あれは將棋として人間の考へたものなのだ。

そこで問題になるのは、「と」と「と」を言葉である。現代の論議がこの「と」と「と」を言葉のうちに含まれてゐると云ふのだが、諸君はどう思ふか？ 僕の考へたいのはこの「と」と「と」を言葉でない、世の中の

等々議會の議事録を讀んで見たまへ。彼等の云ふ言葉がすべて「と」に終つてゐることに注意して、例へば民政黨或は政友會の代議士はみな政友會の代議士として、或ひはまた民政黨の代議士として語つてゐる。ところが彼等について云ふ觀察なのである。

だが、僕は「ソクラテスの辨明」と云ふプラトンの對話篇を思ひ出すのだ。いつたいあれは何の辨明であつたのであらうか？ あの中からは死ななければならぬと云ふ理由をばつたりと得心し、その得心してゐる人間としての心がまへを述べるためにあの法廷で自分の辯護士としての役割をはたしてゐるのである。一つは自分の相手方のために、たとへば被告の辯護士が原告のために辯護し、逆に原告の辯護士が被告のために辯護するやうなことがあり得るであらうか？

私は或る民事専門の判事が云つてゐたことを大へん深い言葉だとも承知してゐるのである。

だがこの中央公論所載の辯護博士の辯護の方法には私は大へん感心したのである。

臺銀の株が將來昇ることを豫想して肩がはりをした、そのことが臺銀としての特殊銀行としていかなる意味をもつかは私は知らない。また辯護博士のその點については少しも觸れてゐないのである。世の中のことはそんなものだ、と云つてすましてゐるわけではないに、しかも神様の法律と人間の法律との區別をはつきり知る上には、いかなるさばきに際しやうとも安心してゐられるのではないであらうか？

私たちがさばかれること、あまりに多い世に生きてゐる。それ故にあまりに自己自身をさばくことをおろそかにしやう。世の中に生きてゐると云へるのである。白雲閑と云ふ風景も私たちに遠い理想なのである。(筆者は本紙顧問)

インテリ階級就中學生社會に於て自由とか自由主義とかの言葉を耳にすることがある。これは相當に統制された團體或ひは社會に於て個人の人格を尊重し常に新らしき進歩的な傾向を企圖せるものと思はれる。殊に義務教育から常識教育と進んで更に高等專門學を修め我々學生の場合に於ての多かれ少かれ各部各團體の受けるべき傾向乃至集團氣は關つて關大の學生を中心とした傾向であり集團氣なればならぬ。この意味に於てかかる傾向と集團氣を無意識にせよ度外視せんとする時は冠を被れる偽者的存在となり、社會の組織を無視した鳥合の衆の群を免がねぬ。

かかる骨組的意識を醸成して關大(即ち)或は稱する場合は往々に自ら一種の社會的惡を形成し乃至はその道程をたどるのである。

△

「關大應援團に希む」と題するに先だち以上の如く序言を置きたるに拘らず當團が遺憾なくある如きは最も一般學生と接觸すべき性質を有し應援そのものが學生の本分なる點から見て第二義若しくは第三義的なものである。亦即ち加はつて學生の眞實さを必要とし應援はお祭りにあらず名物的な単俗は厭ふし等々の意見と相俟つて、當然必要の狀勢とは關ひ乍ら同團に堪へ次第である。

次に専門部なる點に立脚してその應援態度も自然社會人として完成に近き態度を具現し奔放をおさへて他味に而も學生生活を充分に發揚すべきその特質は新應援團大凡そその他幹部諸君に期す所多なるものがあると思ふ。

尙前述の如く一段學生との接觸面も多きが故に信すべからざる言辭を身にする場合がある。

事應援に關する限り當事者も不愉快極まりなく、眞實さを強調する立脚に於てはかかる言辭の一番を期すると共にその由來をたしかめる必要があ

「應援團問題」の問題がある現在行はれてゐる制度では學生、即ち團員は常に團長の統制下にあり團長は應援の必要を認めたる運動部執行の行はるべき委員會その他の承認を得て直ちに「ス、練習」式に團員(學生)の集合を命ずるもの如く見受けらる。

應援團は當然なりと論ずる所以上は一般學生たるものに團員なりとする點に根據を持つ學生常に團員たるは毎回の如く容易に團の組織を見るは困難である。

學生即ち團員たるの承認を一般に得たるか否かは別として、應援そのもの、特質より見る時當團は安當を缺くものがある。即ち應援の必要を認めるべきは關大の名をもつ各運動部の各級或は運動部總てに對しても亦必要とするべきであつて應援團に限定するべからざるに非ざるべき。亦即ち學生の前途の如き自由を或意味に於て束縛し獨善主義に流れる危險をも感ずる次第である。新應援團幹部たるものその義務の重大さを再認識されべきなりと感ずる處を更めて明瞭にして察察ある應援團の前途に更に光輝を輝かせんとするものである。

△

今回の専門部應援團の甲子團應援は世上相當の好感を以て迎へられた。總て相俟つては予野郎にせよ相當に理解をもち之れを樂しまんとする人達が集まるのであるから、かかる團氣の氣分を察して應援の態度も特にこの點を留意せしは當然然らず幹部諸氏の眞如なる態度に一段の敬意を表す願はくは今一層の努力を、應援團諸君

新應援團に希む

すべし。論議學者、特に哲學者が辨護士であると云ふ點である。

そこで人は、何ものかに辨護する氣持なくしては論議し得ないのではないか、逆にまた人を辨護するために、何等の意味に於いて論議の形をからずにはすまされ得ないのではないかと強く思ふのである。

だが、僕は「ソクラテスの辨明」と云ふプラトンの對話篇を思ひ出すのだ。いつたいあれは何の辨明であつたのであらうか？ あの中からは死ななければならぬと云ふ理由をばつたりと得心し、その得心してゐる人間としての心がまへを述べるためにあの法廷で自分の辯護士としての役割をはたしてゐるのである。一つは自分の相手方のために、たとへば被告の辯護士が原告のために辯護し、逆に原告の辯護士が被告のために辯護するやうなことがあり得るであらうか？

私は或る民事専門の判事が云つてゐたことを大へん深い言葉だとも承知してゐるのである。

だがこの中央公論所載の辯護博士の辯護の方法には私は大へん感心したのである。

臺銀の株が將來昇ることを豫想して肩がはりをした、そのことが臺銀としての特殊銀行としていかなる意味をもつかは私は知らない。また辯護博士のその點については少しも觸れてゐないのである。世の中のことはそんなものだ、と云つてすましてゐるわけではないに、しかも神様の法律と人間の法律との區別をはつきり知る上には、いかなるさばきに際しやうとも安心してゐられるのではないであらうか？

私たちがさばかれること、あまりに多い世に生きてゐる。それ故にあまりに自己自身をさばくことをおろそかにしやう。世の中に生きてゐると云へるのである。白雲閑と云ふ風景も私たちに遠い理想なのである。(筆者は本紙顧問)

本年度豫算概評

本年度の豫算編成は委員其他の關係者各位の努力に依り質に良く配合されて居る事は吾人の認める所である。然し乍ら此の折に二つの苦言を呈する。

その一は、右の如き各部の豫算が眞に各部發展向上の爲め引いては關大學園の爲めに消費されて居るか、どうかと云ふ事である。毒々しい言葉かも知れぬが所謂一部を喰物にする」と云ふ事が無きにしも非らず。

従つて各部の事業成績を見るには事業の表面のみを見ないで裏から該部の會計状態を併せ見る事が大切である。従來は各部の會計監査がルーズであつたが、此の年は現在、年度始めであるから具體的な討論を避けて、ここでは將來右の如き見地から事業團體を見守る事がその部をもりたる意味に於いて重要であると云ふ事を附言し各關係者の自制と努力を祈つて止まぬ。

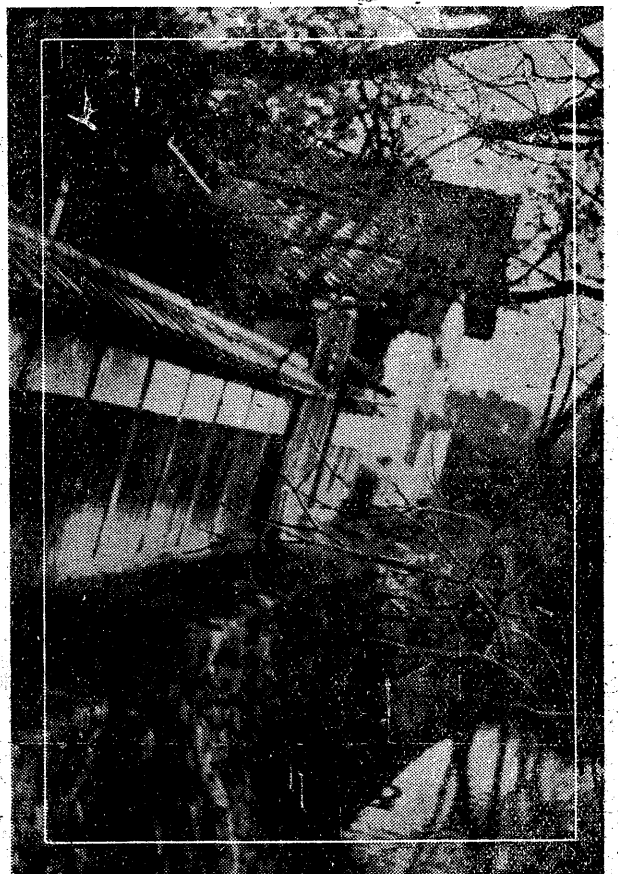
その二は依然として、文藝部はその豫算に於いて運動部に比し、二八分の一にしか當らないのを見て、關大文藝部の貧困さを如實に物語つて居るものである。

勿論今日の關大スポーツを、もりたてた運動部に對しては敬意を表さなければならぬが、其れと共に文藝部の奮闘を促したい。勿論豫算に依つて断定づけられるものでもなく亦單に豫算の額を増す事に依つてのみその發達は期し難い。

い事は謂ふ迄もないが、各部が眞に勉強する爲めの學生であり亦學園である事を自覚し、所謂眞の爲めの一層の努力を惜しまなかつたならば、文藝の殿堂として輝く關大學園を見る事は遠き將來ではあるまい。

文藝部

Table with columns for departments (e.g., 演劇部, 音楽部, 美術部) and budget amounts for the current and previous years.



陽差し……

説法

鬼角人は一局に敵せられる、酒や女は宜しくないと云へば、酒や女は宜しくないと云へば、酒や女は宜しくないと云へば、酒や女は宜しくないと云へば……

本學學生新聞部顧問

本學教授 和田豐二氏

本學講師 菅一守常氏

本學教授 森川太郎氏



持たなかつたならば、重箱の中で仕事をす様な人間になつて仕舞ふのである。古言に英雄色を好み、豪傑酒を好むと云ふ言の皮を執りて直ぐに成程と感心して、酒や女に引きかかつて仕舞つて、終には夫婿の別が雀かへつて仕舞ふ、若し單に色や酒を好む者を英雄としたならば、朝から晩まで呑むと賞事乍らかりして居る奴は、終世の英雄と云はざるを得ない。

氣どつて我輩派なりと誇示する如く得々として居るものを見る。元來破爛褻衣高下駄と云ふのは、一高即立時代、田舎の熊本の學生が一高に入學して郷土に受けたる土風を嫌ひ學生は風裁に捩れる事なく學問を旨として學業に勤むと云ふ所から出發して、それが當時の世に合致し、全學生にその流行を見たのである。即ち實質剛健から生じたものである。

ある男が、極道のできる男が、やたらに廣告する言がない。謂はゆる甲斐性さへあれば誰にでもなし得る事なのだ。青春謳歌と云ふとして享樂主義と考へる。青春を謳歌する。青春を享樂する。出来る人間は實に結構な幸福な男だ。現在のせまい意味から單に享樂主義を青春謳歌と誤解する場合に於ては出来ない男に比してよい星の下の男といふ事になる。青春の謳歌はその示す如く若くさへあれば誰にでも出来る事である。又現今の誤解が堂々と公言される場合には無責任な無節操な或る意味での無頼の徒が群立する。これは恐ろしい事だ。常識的な秘事を無恥(無知に通ずる)とは言ひ條誇り顔に團體の一員たるを誇れて、白晝悠然たるは悠然たるに比して一種の喜劇的(或は悲劇的かもしれぬ)なものを感じると共に、團體の名に對して更に恐ろしい事だ。青春を謳歌する事は否青春を正しく享樂する事は誰かし事に違ひない。殊に學生の場合では更に難かしい。かくてこそ學生の意義が(個々或意味での使命かも知れぬ)現實的な問題に於て正しく評價されるべき機会となる。あらそへない。青春の謳歌とは青春時代の若々しさをその進取的機動的な若々要素を如何にして永く保存すべきやの努力の後に於て意義があるのではないからか。若き時は十二分の若さがある。若き時は謳歌するのみにては十二分の危険を感ずると共に人生の意義がない。若き時は若く、老いたる時は老人で、今日あるを知つて明日あるを知らずは、灰色の道のみが、團體の名に於ける個々の動機は、個々の名に於ける個々の色彩は、世上往々にしてその團體指導者を云々せんとするは必ず至である。かかる立場に於ける者の放任自由主義は一考を要するのではないからか。

時代の波に乗って愈目覺し

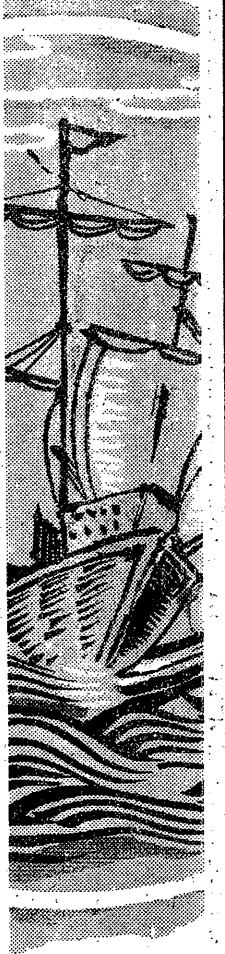
最近學生の研究心が募つて本學にも東亞事情、商業經濟、法律に關する三研究團體の生を見て其後著々として其の目的に進んで居る事は誠に喜ばしい事である。

然しながら一般學生の爲めにも學園の爲めにも今一段の奮闘が望ましい。即ち現在の如く單に同好の士のみを以つて進む事なく一般學生の研究心を助長し亦それに對する深き認識を圖つて以つて其の主旨に副ふ可く努力し關大文化に貢獻せられん事を切望する。

笛芦

飲む、ぶつ、買ふの極道といふ極道とは甲斐性のある男ならぬ。いなし得ぬ事に違ひない。不言實行甲斐性のある男が、極道のできる男が、やたらに廣告する言がない。謂はゆる甲斐性さへあれば誰にでもなし得る事なのだ。青春謳歌と云ふとして享樂主義と考へる。青春を謳歌する。青春を享樂する。出来る人間は實に結構な幸福な男だ。現在のせまい意味から單に享樂主義を青春謳歌と誤解する場合に於ては出来ない男に比してよい星の下の男といふ事になる。青春の謳歌はその示す如く若くさへあれば誰にでも出来る事である。又現今の誤解が堂々と公言される場合には無責任な無節操な或る意味での無頼の徒が群立する。これは恐ろしい事だ。常識的な秘事を無恥(無知に通ずる)とは言ひ條誇り顔に團體の一員たるを誇れて、白晝悠然たるは悠然たるに比して一種の喜劇的(或は悲劇的かもしれぬ)なものを感じると共に、團體の名に對して更に恐ろしい事だ。青春を謳歌する事は否青春を正しく享樂する事は誰かし事に違ひない。殊に學生の場合では更に難かしい。かくてこそ學生の意義が(個々或意味での使命かも知れぬ)現實的な問題に於て正しく評價されるべき機会となる。あらそへない。青春の謳歌とは青春時代の若々しさをその進取的機動的な若々要素を如何にして永く保存すべきやの努力の後に於て意義があるのではないからか。若き時は十二分の若さがある。若き時は謳歌するのみにては十二分の危険を感ずると共に人生の意義がない。若き時は若く、老いたる時は老人で、今日あるを知つて明日あるを知らずは、灰色の道のみが、團體の名に於ける個々の動機は、個々の名に於ける個々の色彩は、世上往々にしてその團體指導者を云々せんとするは必ず至である。かかる立場に於ける者の放任自由主義は一考を要するのではないからか。

Large advertisement for '關西堂' (Kansai-do) bookstore. It features an image of the store, contact information, and a list of services including book sales, printing, and specialized bookstores for students.



おめでたい話

板倉 鞆 音

何か書けといふことである。そこで何かおめでたい話を書かうと決めてかかる。何時だつたか何かのお祝ひの時に、お能の「福の神」を見られる羽目に立ち至つた事がある。當時血氣に逸つて氣短だつた僕は、何だかんなナンセンスがと馬鹿にしてかかつたのだが、さて他に致し方なく眺めてゐるほどに、つひ春風タイツとして何がなしのんびりとおめでたい氣持になつてしまつたから妙である。古い傳統の藝術にはなかなか乗て難い力があるものと柄になく感心したものであつたが、さて自分の身邊を見廻してみても、どこに一體おめでたい話などどこがつかゝるのだらうかと考へてみると甚だ心細い。

元旦の床の中で寝ぼけになつて枕元におかれてゐた賞状を見てみると、前田夕暮先生（これは僕の十年來の師である）からの賀状に「大きな林檎を空にほり上げるやうな氣分になれぬかな」と書いてあつた。それを見て僕は今年はいよいよお正月を迎へたといふ氣がした。今年はお正月を出さなかつちやと考へた。この先生のお言葉には少々曰く因縁があるのである。一月前の雑誌に僕の批評をやらされた僕は、いか下もあつて「彼等」とか「彼れた」とかいふ文字をふんだんに使用したものである。さうした後防線をはりめぐらしておいて、さて面白くない歌は一まとめでして、「彼れたからこの邊で沈黙する」と逃げたものである。さうすると口さがないのがあつて、沈黙がやなくて黙殺だらうと抗議してよこした。まさしくそれに違ひなかつたのだが、それにしてもこしはらう僕が疲勞困窮してゐるのも事實である。何しろ北白川の山里から千里山までの往復にはたつぷり三時間はかかるのである。それに少々無理な翻譯などに携はつたり、そして何よりも、ケストナアではないが、僕と雖も自分のリネッタサツクは自分で買はねばならぬ、リネッタサツクは成長する、言は廣くはなりやしないのであつてみればこれは疲れるのも無理からぬことであらう。だが人間といふ奴は妙なもので、疲れた、疲れた、と言つてゐると本當に疲れつちまつてからつきし氣力がなくなつていけぬ。

「今年は一ツ大きな林檎を空にほり上げたやうな氣分になるか、と床を蹴つて起き上り、顔を洗つてお風呂の前で坐つてゐる。さうして一つ身ぶるひをして思はず、

「あ、今日も寒いな」

と、傍らに侍つたジョンソン（通稱）が

「どうして寒いのか？」

「冬だからな」

「どうして冬なの？」

「お日様がとほくへいぢまつたからな」

「どうしてお日様がとほくへいぢまつたの？」

「こと面倒と見てとつた僕は、お雑煮の一片を彼の目の前に突きつけて、

「さあ、一つ喰へろ。」

その氣合ひに釣ひこまれて口を開きかけたジョンソンは然しお餅

を口先につきつけられたまゝ、「どうして喰へるの？」

「だつて、喰へなや大きくなれないぜ」

「どうして喰へなや大きくなれないの？」

「大きくなれなや困るだらう」

「どうして困るの？」

「ジョンソンはお兄いぢやんだからな」

「どうしておにいぢやんの？」

「だつてさ、ジョンソンにもベイベイが出来たらう」

「どうしてベイベイが出来たの？」

「そこで僕は獨逸の若いお母さんよろしく鵜の島まで持ち出すことになるのである。果ては物理化學哲學天文地理等々宇宙萬般の現象あらゆる知識を總動員して應戦に努めるのだが、致至の實用せぬにはめつたにへこまない僕も、これは全く刀折れ矢つきで、つひにはへとへとに倒つてしまふのである。

かくの如くにして、折角の休暇だといふのに點がな一日かなしに敗北のその日を遂つて来たのである。これは全く大きな林檎どころのさわぎではないのである。と、そこへ醫師のお許しが出来る。と、女房が病院から歸つて来た。やれやれと思ふのも然し東の間、永い留守中にオヤチにのみなつてしまつたジョンソンは、女房の顔を見るや否や「イヤなんかもうらんぞ！」と大見張をきつた。まだ甚だ氣がよかつたのだが、それが僕の膝から少しも離ればこそ、かて、かへて鵜の島からの贈物が狭い家中に甚だ動物的な騒音をがなり散らして憚らないのである。

さて、快よく寝まつた子供はすやすやと眠り、坊主共は戦車や機關銃に餘念なく、W夫人御自慢の獨逸仕込のベレータス・ブローグが風呂敷包みから取出され、紅茶は茶算言から、皿は皿の在りからと夫々整へられて、僕の前にもカヴァイールヤシニミア・ウルストヤケイゼのつかつたパン切れが盛られ、紅茶が食慾的な薫を放つ。藥罐がシンシエンとたざり、午後の陽が暖かにさし込んでゐる。若い夫人たちがとり交す美しい聲と聲、其快い響きの意味がいははこの僕にまで何であらう。あゝのどかた、と思ふと急に本當にお正月が来た氣持になり、うつらうつらと僕ははむくなるばかりである。

ジョンソンをへん様の赤頭巾で履かしつけやれやれと今日初めての二階への階段を上る。さうして初めて僕の間である。机の前に坐ると流石に色々なことが考へられる。昔この二階に同居してゐたヤッコがこんなことを言つた「日本人はどうして早く結婚してしまふのだらう。そしてどうして結婚するとあんなに善良になつてしまふのだらう。」そのヤッコなどと三條四條あたりの夜更けをブンメルンして日本を論じ獨逸を論じたのもつひこの間のことである。三四時間の睡眠の後、頭に冷水をぶつけてバスの乗場へ駆けつけるやうな日々を送つたのもつひこの間のことである。それが今は遠くなつたか、いふやうな心の一隅にはほのかなる明りをともしてゐるに過ぎない。机の横に敷べられた暖かきな履床こそ今が僕には唯一の現實的な慰めである。その中にもぐり込むと僕は、ハイネではないが、豚の如く疲れた身を神の如く安らかにねむるのである。（筆者は本學助教也）

關大の皆様
新らしきクツションが
待つて居ります

本月開店
ローテーション 天四撞球場
（省線天満驛スグ北側）

趣味や娯樂は精神作興や體位向上に役立つものを選びませう
特に奴俱樂部は皆様をお待ち致します但し御勉學第一に餘暇を御利用

天神橋筋七丁目三七
有樂座 ニューズ館前
高級撞球場 奴俱樂部
電話堀川六二〇七番

撞球界に曉來る
健康な雰圍氣に
關大マン來れ

天神橋筋八丁目(交番前)
撞球場 アカツキ

ヤングマン服装専門
若人よ
新しい服装はドウゾ
若人のみの好ましいスタイル
文句たれのお客様
カワイのオッサンが待つてゐる

河合洋服店
日本橋一丁目交又點
電話南三三八一

阿部一族

戰國の余孽未だ去りやぬ備前守
肥後五十四萬石の太守
細川忠中に出陣を誓つた阿部一族が死をめぐつて燃起する武士道劇事！

原作 森 鷗外
演出 熊谷久虎
前進座一黨總出演
河原崎長十郎
中村翫右衛門
山岸しづ江
堤 眞佐子
待望・熊谷久虎と前進座の協力なつて陽春驛頭に放つ第一弾！

東宝

阿部一族 役

阿部 右衛門 市川染太郎
妻 お 浪 一の瀬ゆり子
三男 一太夫 市川三郎
五男 七之丞 市川 勇
柄本 又七郎 河原崎長十郎
女中 お 咲 堤 眞佐子
外オールスターキャスト

梗概
寛十八年九月十八日、肥後五十四萬石の大守細川忠中守忠利將本城下に於て逝去した。御遺骸として千石石を頂戴してゐた阿部一族は死を願ひ出て許されず、阿部のうちに日を送つてゐた。阿部の腹の皮は刀で切れるなる難儀に油を塗つて切ればよかといふ陰謀を聞くに及んで遂に意を決して、阿部右衛門は自らし腹を切つた。阿部右衛門の死は殉死の扱ひを受けたが、一段と多る扱ひがなされたのである。
主、主ならざれば、臣、臣たり難し。去るに處なき一族の運命はすでに定つてゐた。「謀殺」と呼ばれ、戦はる、断じて戦はる！」と立ち上るのであつた。